

ごあいさつ

平成 24 年度における病院事業として特記すべきことは、最新の放射線治療装置を導入したことです。病院として重点的に取り組んで参りました肺がん治療の 1 つの柱であります放射線治療の充実を図るためです。この治療装置は治療装置本体と C T が同室に設置され、定位放射線治療（S R T）や強度変調放射線治療（I M R T）等が可能です。平成 24 年 3 月から半年ほどを掛け放射線治療棟の新設工事、治療機器の搬入、調整等を行い、平成 24 年 8 月から診療を開始いたしました。

以下に平成 24 年度の実施計画により取り組みましたその他の主なる事業と実績を御報告いたします。

1 地域医療連携

昨年と同様、「地域医療支援病院」として、地域医療支援事業の継続と充実に力を注ぎました。地域医療支援事業運営委員会は 24 年度におきましても、外部委員の先生方のご協力により、平成 24 年 9 月、平成 25 年 3 月に開催することができました。委員の先生方には、多くの貴重なご意見を賜り、地域医療支援事業の推進に多大なるご協力をいただきましたことを心よりお礼申し上げます。

2 循環器医療の総合的推進

循環器内科は、高齢化による循環器の慢性的疾患（不整脈や心不全）の患者さんの増加に伴い、不整脈治療のアブレーション件数や心血管リハビリテーション件数が増加しています。社会のニーズに対応するため、心筋梗塞等の急性期疾患ばかりでなく、慢性的疾患にも力を注いでいます。そのため当センターの循環器医療は、リハビリテーション部門が強く連携した総合的な医療になっています。

心臓血管外科については、平成 22 年度から、九州大学より派遣の部長 1 名と横浜市立大学より派遣の 2 名の医師からなるチームによる診療が始まりましたが、心臓手術件数は平成 23、24 年度と順調に増加しています。

3 呼吸器系医療、特に肺がん治療の強化

冒頭でも述べましたように、肺がん医療の一つの柱である放射線治療を、最新の放射線治療装置を導入することにより強化いたしました。

4 結核治療

多剤耐性結核対策等、総合的な結核医療を継続いたしました。時代とともに県内の病床数は大きく減少していますが、結核治療は現在でも当センターの医療の大きな柱の1本です。

5 その他

県民の皆様への医療啓発活動として、平成 24 年度は公開医療講座を 2 回、出張医療講座を 7 回開催いたしました。平成 15 年からはじめた公開医療講座は平成 24 年度で 19 回を、平成 18 年度よりスタートした出張医療講座は 50 回を数えました。

以上、平成 24 年度の年度計画に従って様々な取り組みを行ってまいりました。お陰をもちまして、平成 24 年度も経常収支が黒字となり、8 年連続経常収支の黒字を達成致しました。今後とも当センターは安定した経営基盤の形成に努力し、県民の皆様には質の高い医療を継続的に提供して参ります。

平成 25 年 12 月 25 日
地方独立行政法人神奈川県立病院機構
県立循環器呼吸器病センター
所長 廣瀬好文